

## 第2期滋賀県スポーツ推進計画に基づく施策の実施状況について

(令和3年度実績)

### 第2期滋賀県スポーツ推進計画の概要

平成27年12月に公布、施行した滋賀県スポーツ推進条例に基づき、平成30年度から令和4年度までの5年間の計画期間とする「第2期滋賀県スポーツ推進計画」を平成30年3月に策定した。

#### ・目指す姿

すべての県民が身近にスポーツを楽しみ、自ら進んで参画し、互いに連携・協働することを通じて、滋賀県民であることに誇りを感じて、幸福で豊かな生活を営むことができる共生社会の実現 ～スポーツで滋賀を元気に！ 滋賀の未来を創る！～

#### ・基本方針

- I スポーツの力で「豊かで健やかな生活」を創る！
- II スポーツの力で「元気な地域」を創る！
- III スポーツの力で「感動の滋賀」を創る！

#### ・政策

- 1 生涯にわたるすべての県民のスポーツ活動の充実
- 2 スポーツの持つ多様な価値の共有
- 3 スポーツ施設・環境の充実
- 4 スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化
- 5 国体・全国障害者スポーツ大会等に向けた競技力向上と競技者の拡大
- 6 地域の特性を活かした大会レガシーの創出

#### ・計画期間

平成30年度～令和4年度 (5年間)

### ■指標の達成状況

#### ・達成率

【(実績-基準) / (目標-基準) × 100】により算定

達成率がマイナスとなったものは「0%」、100を超えたものは「100%」としている。

#### ・評価

滋賀県基本構想実施計画(第1期)に位置付けがある指標のうち同実施計画の年次目標を達成しているものは「A」、達成していないものは「B」、未集計は「N」として表している。ただし、同実施計画の年次目標に位置付けがない指標については、令和2年度は60%以上、令和3年度は80%以上のものを「A」、令和2年度は60%未満、令和3年度は80%未満のものを「B」としている。

評価	令和2年度	令和3年度
A：年次目標達成	3項目	4項目
B：年次目標未達成	10項目	10項目
N：未集計	3項目	2項目
合計	16項目	16項目

## 第2期滋賀県スポーツ推進計画 指標の達成状況（令和3年度）

評価	項目数	指標の内容 (下線は滋賀県基本構想実施計画に位置付けがあるもの)	令和3年度 の状況	目標 令和4年度※1	達成率 (%) ※2	
A	年次目標 達成	4	・しがスポーツ大使の就任数	48者	50者以上	91.7
		・アスリートを採用した県内企業数	46社	45社以上	100.0	
		・ <u>スポーツボランティア登録者数</u> ( <u>本県ボランティア登録システム利用</u> )	3,823人	2,000人以上 (2,000人以上)	100.0	
		・総合型地域スポーツクラブで指導する 有資格スポーツ指導者数	396人	370人以上	100.0	
B	年次目標 未達成	10	・ <u>成人の週1回以上のスポーツ実施率（男）</u>	55.2%	65% (61%)	66.7
		・ <u>成人の週1回以上のスポーツ実施率（女）</u>	48.6%	65% (61%)	41.8	
		・子どもの1週間の運動・スポーツ実施時間 (土日を含み、平日授業を除く) 【小学5年生】（男）	527.5分	625分	0	
		・子どもの1週間の運動・スポーツ実施時間 (土日を含み、平日授業を除く) 【小学5年生】（女）	313.4分	382分	0	
		・県内の公共スポーツ施設の利用者数	4,110,524人	7,300,000 人以上	0	
		・民間団体等の実施するスポーツイベ ントへの県の後援件数	96件	200件以上	0	
		・スポーツ・レクリエーションを目的と する観光入込客数（暦年）	876万人	1,200万人 以上	0	
		・滋賀県を本拠地とするプロスポーツチ ーム等のホームゲーム観客数	42,174人	100,000人 以上	0	
		・県障害者スポーツ大会の参加者数	562人	1,000人 以上	0	
		・オリンピック・パラリンピックのホストタ ウンを通じて海外との交流を始めた市町数	5市	6市町以上	66.7	
N	未集計	2	・障害者の週1回以上のスポーツ実施率	—	65%以上	—
		・国体総合順位	—	8位以内	—	

※1 滋賀県基本構想実施計画に位置付けがある場合は、当計画における令和3年度の年次目標数値を（ ）で記載。

※2 滋賀県基本構想実施計画に位置付けがない指標の達成率算定方法：

$$\frac{(\text{実績} - \text{基準})}{(\text{目標} - \text{基準})} \times 100$$

達成率がマイナスとなったものは「0%」、100を超えたものは「100%」としている。

滋賀県基本構想実施計画に位置付けがない指標の評価については、達成率80%以上のものを達成（A）、80%未満のものを未達成（B）としている。

## 【基本方針Ⅰ】スポーツの力で「豊かで健やかな生活」を創る！

### ■生涯にわたるすべての県民のスポーツ活動の充実（政策1）

#### 【主な指標の状況】

指 標	策定時 (H28)	R2	R3	R4 目標	達成率	評価
成人(男・女)の週1回以上のスポーツ実施率	男 35.6% 女 36.8%	男 50.1% 女 47.4%	男 55.2% 女 48.6% (目標 61%)	男女とも 65%以上	男 66.7% 女 41.8%	B B
子ども(男・女)の1週間の運動・スポーツ実施時間 (土日を含み、平日の授業を除く)【小学5年生】	男 590.7分 女 347.2分	— —	男 527.5分 女 313.4分	男 625分 女 382分	男 0% 女 0%	B B

#### 【主な施策の実施状況および今後の方向性】

- 「滋賀県民総スポーツの祭典」を年間を通じて開催し、多くの方々がスポーツを楽しむ機会を創出した。(169 種目中 118 種目を開催、参加者 21,535 名)  
また、県スポーツ協会等の開催する親子の運動遊びイベントにおいて運動遊びプログラムの普及・啓発を行うなど、スポーツ実施率の低い女性や働き盛りの世代がスポーツに取り組むきっかけづくりや習慣化につながる取組を実施した。

##### 【今後の方向性】

滋賀県民総スポーツの祭典がより一層多くの方々に参加していただける大会になるよう検討を進める。

また、スマートフォンアプリやオンラインを活用し、県内企業等の従業員がチーム単位で参加できるウォーキングイベントの開催など、より多くの方が参加できる事業を実施することで、運動習慣の定着を図る。

- 障害者が身近な地域でスポーツに親しむことができるよう、総合型地域スポーツクラブにおいて障害者スポーツ教室を実施した。  
(14 クラブ、参加者のべ 758 人)

また、身近な地域で障害者スポーツを体験できる「スペシャルスポーツの広場」を県内 4 か所で開催した。(参加者のべ 201 名)

##### 【今後の方向性】

障害者スポーツに早くから取り組んできた総合型クラブのノウハウ等を他の総合型クラブにも広めるほか、「スペシャルスポーツの広場」への参加を促進するなど、障害者スポーツの裾野拡大を図る。



(障害者スポーツ教室)

- 体育・保健体育の授業の充実について、小学校では「新体力テスト新・分析支援システム」の活用や外部講師による運動教室等を実施し、授業改善を図った。

また、中学校では運動への愛好的な態度の育成と体力の向上を重視する授業改善の枠組みを「滋賀モデル」として作成した。

##### 【今後の方向性】

小・中学校共通のテーマである「子どもの体力向上」に向け、「運動への愛好的な態度」の育成に努め、幼・小・中学校の連携、高等学校との接続を見据えて、校種の枠を超えた研修の機会や授業研究を充実させていく。



(外部講師による運動教室)

- 中学校・高等学校における運動部活動については、部活動指導員を幅広く配置するとともに、彦根市と米原市で公立中学校における休日の部活動の地域移行の実践研究を実施した。

##### 【今後の方向性】

公立中学校の部活動の地域移行について、少子化の中でも将来にわたりスポーツに継続して親しむことができる機会を確保できるよう、国の動向を注視するとともに、市町や関係機関等と連携を図り取り組んでいく。

## ■スポーツの持つ多様な価値の共有（政策2）

### 【主な指標の状況】

指 標	策定時 (H28)	R2	R3	R4 目標	達成率	評価
アスリートを採用した県内 企業数	32 社	44 社	46 社	45 社以上	100%	A
スポーツボランティア登録 者数(本県ボランティア登録 システム利用)	334 人	3,629 人	3,823 人 (目標 2,000 人 以上)	2,000 人 以上	100%	A

### 【主な施策の実施状況および今後の方向性】

- 「SHIGAアスリートナビ」による県内企業への就職斡旋とともに、県スポーツ協会が雇用主体である「スポーツ特別指導員配置事業」を新設し、トップアスリートの獲得に努めた。  
(令和4年4月入社 協力企業 21 名、スポーツ特別指導員 6 名)  
【今後の方向性】

「SHIGAアスリートナビ」を活用し、アスリート採用企業数の拡充に努めるとともに、県スポーツ協会において「スポーツ特別指導員」の雇用を進め、トップアスリートの獲得を図る。



(SHIGAアスリートナビ入社選手  
小川耀司((公財)青樹会 滋賀八幡病院))

- 令和3年7月に、県民がスポーツボランティア活動へ気軽に参加できる枠組を整備し、その活動を様々に支援することにより、スポーツボランティアの意義や魅力、楽しさを広く普及し、本県におけるスポーツボランティア文化の定着を図るための推進組織として、「しがスポーツボランティア協議会」を設立した。

当協議会では、ボランティアに関する基礎知識や救命救急講習など多様なジャンルの研修をオンラインも活用しながら実施(研修実施回数7回)したほか、各種団体等が主催する大会やイベント等について活動の場を提供した。(活動者数のべ1,867人)



(ボランティア研修)

#### 【今後の方向性】

ボランティアの方々が今後の大規模スポーツイベントで活躍いただくためには、登録者が研修や活動に参加し、知識や経験を蓄積していただくことが重要であることから、「しがスポーツボランティア協議会」を中心に活動参加を促す魅力ある事業を継続的に展開し、本県におけるスポーツボランティア文化の醸成につなげていく。

- しがスポーツ大使を招へいしたスポーツの魅力を伝える講演会や、培ってこられた技術を伝える教室等への取組に対して補助を行うことで、県民との交流を促進した。(実施件数 13 件、参加者 1,732 人)

#### 【今後の方向性】

引き続き大使の委嘱を進め、スポーツの魅力を発信していくとともに、県民との交流機会の創出を図っていく。



(しがスポーツ大使  
我孫子智美氏によるスポーツ教室)

## 【基本方針Ⅱ】スポーツの力で「元気な地域」を創る！

### ■スポーツ施設・環境の充実（政策3）

#### 【主な指標の状況】

指標	策定時	R2	R3	R4 目標	達成率	評価
総合型クラブで指導する有資格スポーツ指導者数	267人 (H28)	283人	396人	370人以上	100%	A
県内の公共スポーツ施設の利用者数	6,617,409人 (H26)	3,483,340人	4,110,524人	7,300,000人以上	0%	B

#### 【主な施策の実施状況および今後の方向性】

- 令和4年度から始まる総合型クラブ登録・認証制度に向けて、各クラブで指導者資格取得に対する意識が高まったことによりスタッフ等の資格取得が進み、目標を達成することができた。

##### 【今後の方向性】

総合型クラブ登録・認証制度の申請を促すとともに、県教育委員会が検討している運動部活動の地域移行に関する情報収集に努め、関係機関と連携を図りながら各事業を推進していく。

- 県内の公共スポーツ施設の利用者数は、前年度に比べ増加しているものの、新型コロナウイルス感染症の影響により施設の一時閉鎖や利用制限があったため、コロナ前（平成30年度：583万人）と比較して7割程度にとどまっている。

本県で開催する国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会（以下「国スポ・障スポ大会」という。）に向け、彦根総合スポーツ公園の再整備については建築・造成工事等を実施し、滋賀アリーナ整備については建物外装工事および内装工事を行ったほか、（仮称）草津市立プールの整備については草津市に対して財政支援を行った。

##### （主な施設の供用開始時期）

滋賀アリーナ	令和4年12月予定
彦根総合スポーツ公園	令和5年4月予定



（彦根総合スポーツ公園整備状況（令和4年8月））



（滋賀アリーナ整備状況（令和4年8月））

##### 【今後の方向性】

国スポ・障スポ大会の競技会場としてだけでなく、県民のスポーツ・健康づくりの中核施設となるよう、周辺環境等にも配慮しながら、着実に整備を進めていく。

### ■スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化（政策4）

#### 【主な指標の状況】

指標	策定時	R2	R3	R4 目標	達成率	評価
滋賀県を本拠地とするプロスポーツチーム等のホームゲーム観客数	60,844人 (H29)	35,211人	42,174人	10万人以上	0%	B

#### 【主な施策の実施状況および今後の方向性】

- 滋賀県を本拠地とするプロスポーツチーム等では、新型コロナウイルス感染症対策を講じながらホームゲームが開催されたが、観客数の制限などによりホームゲーム観客数はコロナ前の水準に回復するには至っていない。

プロスポーツチーム等の試合会場において、大規模スポーツ大会の周知や機運醸成を図るとともに、チームの保有するSNS等を活用し、障害者スポーツ等の啓発を実施した。



（滋賀レイクスターズによるパラスポーツ体験動画）

##### 【今後の方向性】

引き続き、県内のプロスポーツチーム等の発信力を活用し、チームのSNS等を活用した大規模スポーツ大会の周知や機運醸成などを実施する。

## 【基本方針Ⅲ】スポーツの力で「感動の滋賀」を創る！

### ■国体・全国障害者スポーツ大会等に向けた競技力の向上と競技者の拡大（政策5）

#### 【主な指標の状況】

指 標	策定時 (H29)	R2	R3	R4 目標	達成率	評価
国体総合順位	39 位	—	—	8 位以内	—	N
県障害者スポーツ大会の 参加者数	773 人	150 人	562 人	1,000 人 以上	0%	B

※国体総合順位の目標について、滋賀県競技力向上基本計画では令和3年3月の改定において令和4年度目標を「10位台」としている。

#### 【主な施策の実施状況および今後の方向性】

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、三重県で開催予定であった第76回国民体育大会（本大会）および第21回全国障害者スポーツ大会の中止が決定した。

令和3年度は、「滋賀県競技力向上基本計画」で位置付けた「躍進期」の一年目として、新たに設置した「競技団体会長会議」の場で強化方針や各競技団体の重点目標を共有するなど、目標達成に向かう体制整備を推進した。

- 県内在住の小学5年生を「滋賀レイキッズ第8期生」に認定（42人）し、7期生とともに育成プログラム（のべ23回）を実施した。

ターゲットエイジの中から強化指定選手として指定証を交付（37競技 722名）し、競技ごとに強化事業を実施するとともに、令和2年度に鹿児島国体の延期により影響を受けた選手に対しても、引き続き支援を行った。



（滋賀レイキッズ第8期生認定証交付式）

また、「高校生トップアスリート支援事業」を創設し、本県の代表として活躍が期待できる選手への支援を行い、優秀な選手の県外流出の抑止に努めた。

#### 【今後の方向性】

上位入賞が期待できる選手に対する個人指定強化対策を充実し、更なる競技力の向上を図るほか、国民スポーツ大会開催年に少年種別として出場する世代であるターゲットエイジの高校進学に当たり、競技団体や中学校との連携強化を図り、優秀な選手の県外流出の抑止に向けた取組を進める。

- 強化拠点校に優秀指導者を派遣するとともに、専門的な競技指導のできる指導者の配置を行い、継続して選手への指導ができる体制の整備を図った。

また、競技団体の指導力と組織力強化を図るため、各競技団体のプロジェクトチームリーダーを集め、専門の講師による研修会を開催した。

#### 【今後の方向性】

引き続き強化拠点校に優秀な指導者を派遣し、拠点校の強化と魅力向上を図るほか、指導者の資質向上のため、トップレベルの指導者を積極的に招へいするとともに、将来の指導者となる優秀な選手の確保に努める。

## ■地域の特性を活かした大会レガシーの創出（政策6）

### 【主な指標の状況】

指 標	策定時 (H28)	R2	R3	R4 目標	達成率	評価
オリンピック・パラリンピックの ホストタウンを通じて海外との交 流を始めた市町数	3 市	5 市	5 市	6 市町 以上	66.7%	B

### 【主な施策の実施状況および今後の方向性】

- ホストタウンに登録されている5市のうち、米原市、甲賀市および彦根市の3市は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により事前合宿の受入れを取り止めたが、大津市および守山市の2市については着実な感染防止対策を講じた上で事前合宿の受入れを実施し、練習見学会やオンラインを活用した交流会の開催等により交流を創出することができた。



(大津市ーニュージーランド(ボート競技)  
練習見学会)

#### 【今後の方向性】

事前合宿の受入れをはじめとするホストタウン相手国との交流の成果を生かして、対象競技を地域のシンボルスポーツとして普及させていく。

- 本県での国スポ・障スポ大会の開催に向けて、会場地市町の選定を進めるとともに、競技会場となる市町に対して支援を行った。

また、各種イベントにおける啓発活動に加え、広報物品、メディア、屋外広告など、マスコットキャラクター・愛称・スローガンを活用した様々な広報啓発活動を展開するとともに、イメージソングの発表、広報誌の発行開始によりさらなる発信を行い、大会開催の周知と機運醸成を図った。

#### 【今後の方向性】

すべての競技会場地の選定に向けて調整を続けるとともに、各競技会の開催に向けた準備が円滑に進むよう、市町、競技団体に対する支援を行う。あわせて、令和4年度は滋賀



(国スポ・障スポ広報誌「シャイン!!」)

県での開催が決定する節目の年であるため、これを契機として、開催決定イベントの開催、大会専用ホームページのリニューアルなどの取組を実施することにより、さらなる機運醸成が図れるよう発信していく。